

四則演算から応用まで Excel計算・関数 基本マスターシート

1. 割り算の基本 (/ 記号)

1-1. 基本構文

- 数式： =分子/分母
- 例： A1=10、 B1=3 のとき
 - =A1/B1 → 3.333333...

1-2. よくあるつまずき

- 分母が0または空白のセルの場合
 - =A1/B1 → #DIV/0!

2. QUOTIENT関数（整数部分だけが欲しい時）

| 2-1. 何を返す？

- 割り算の結果の「整数部分」のみを返す（小数部分は切り捨てる）

| 2-2. 構文

- 関数： =QUOTIENT(分子, 分母)

| 2-3. 例

- =QUOTIENT(10, 3) → 3
- A1=10、 B1=3 のとき
 - =QUOTIENT(A1, B1) → 3

| 2-4. 注意

- 分母が0の場合
 - =QUOTIENT(A1,B1) → #DIV/0!（ゼロ除算）エラーが発生

3. エラー処理（IFERRORで #DIV/0! を見せない）

3-1. 目的

- 0割り等のエラーを「指定した値」に置き換えて、表を見やすくする

3-2. 構文

- 関数： =IFERROR(式, エラー時に返す値)

3-3. 例（割り算のエラーを0にする）

- A1/B1 がエラーなら0を返す：
 - =IFERROR(A1/B1,0)

3-4. 例（QUOTIENTも同様に処理）

- =IFERROR(QUOTIENT(A1,B1),0)

4. 四捨五入・切り上げ・切り捨て（ROUND系）

4-1. 関数の使い分け

- **ROUND**：四捨：一般的な集計、金額計算
- **ROUNDUP**：常に切り上げ：予算の多め見積もり、必要な箱数の計算
- **ROUNDDOWN**：常に切り下げ：ポイント計算、上限を超えないための計算

4-2. 桁数（第2引数）の意味（どの位置で数字を整えたいか）

- 右側（小数点以下）を整えたい：1は小数第1位（「.1」の単位）、2は小数第2位（「.01」の単位）まで残す
- 小数点以下をなくして整数にしたい：0
- 左側（10の位や100の位）を整えたい：-1は1円単位で、-2は10円単位で四捨五入

4. 四捨五入・切り上げ・切り捨て（ROUND系）

4-3. 割り算＋四捨五入（最頻パターン）

- A1=10、B1=3 のとき
 - 整数に四捨五入：=ROUND(A1/B1,0) → 3
 - 小数第1位：=ROUND(A1/B1,1) → 3.3
 - 小数第2位：=ROUND(A1/B1,2) → 3.33

4-4. 応用：割り算＋エラー回避＋四捨五入（実務向け）

- 分母が「0」や「空欄」でエラー（#DIV/0!）になっても壊れない、かつ四捨五入：
 - =IFERROR(ROUND(A1/B1,1),0) ※数式全体をIFERRORで包むのが現場のベストプラクティス

5. 一気に複数行の割り算をする（フィルで展開）

5-1. 前提のデータ配置（例）

- A列：分子
- B列：分母
- C列：結果

5-2. 手順（最短）

1. C1に $=A1/B1$ を入力
2. C1の右下（フィルハンドル）を下へドラッグ、またはダブルクリック
3. C2は自動で $=A2/B2$ 、C3は $=A3/B3$...となる

5. 一気に複数行の割り算をする（フィルで展開）

5-3. 実務向けテンプレ（0割り回避つき）

- C1に入れて下へコピー：
 - =IFERROR(A1/B1,0)

5-4. 実務向けテンプレ（0割り回避+小数1桁）

- C1に入れて下へコピー：
 - =IFERROR(ROUND(A1/B1,1),0)

6. 目的別：どれを使うべきか早見表

目的	数式
普通に割り算したい	=A1/B1
整数だけ欲しい	=QUOTIENT(A1,B1)
0割りで表を壊したくない	=IFERROR(A1/B1,0)
割り算結果を丸めたい	=ROUND(A1/B1,桁)
0割り回避＋丸めたい	=IFERROR(ROUND(A1/B1,桁),0)
複数行へ一括で適用したい	C1に式 → フィルで展開

※2026年2月時点の情報をもとに作成しています